

神奈川県環境学習リーダー会

会報 No. 66

2009年
3月30日発行

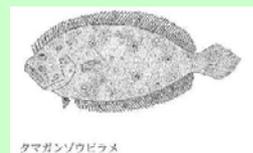


"でびら" ひらめ科のタマガンゾウビラメ(標準和名)

◎ 巻頭言 ◎

主に瀬戸内海地方での名称

我が故郷の海



副代表理事 内藤克利

皆さんお元気でしょうか。今年度の私は体調不良が続く多くの皆様にご迷惑をお掛けしました。まだ七分咲きの感じですが、お役に立てるよう頑張っています。

地球温暖化問題も今後の行く末は決まった感じで、CO₂削減率を決めるための攻防戦で新聞紙上が賑わっています。どんなことになるか興味津々です。京都議定書の約束を守るために排出権取引を行った日本国もご苦労様ですが、その費用負担は国民です。

これから記述する内容は、瀬戸内の小さい町の出来事です。50年前の海岸でイイダコが沢山釣れたが今は全く釣れない話です。イイダコ=飯蛸です。頭に多くの卵が詰まっており、その一粒がご飯一粒の大きさであることからイイダコと言われたようです。同じ蛸は関東の食堂で「いいだこ」の名で見られますが飯はありません。50年前の海は遠浅で大潮のときは100メートル沖合まで歩いて行けました。そして手を伸ばせば多くの巻き貝が取れました。その途中は深さ1mの谷となっており満潮時にはイイダコの釣り場となります。海藻も多く毎年夏の終わりの楽しみでしたが、その後イイダコにはお目に掛からなくなりました。エサもない海になったのです。場所は環境省推薦国立公園瀬戸内海室積海水浴場の中央です。

その後、海岸の砂が減り始め海水浴場の砂場も崩れる現象が続き、市は観光資源を守るためにトラックで砂の搬入を始めました。同時に海辺の砂も減少し、昔の遠浅であった位置



H15年環境省「快水浴場百選」室積海水浴場

にテトラポットで100m長さの堤防を2箇所を設置してなんとか海辺砂の景観維持を保っているのが現状です。

その原因については「不明」ですが、この50年の間に多くの事柄が語られています。

1. アジア大会が広島で開催され、ハンドボール会場整備のため、グラウンド建設のため山林がなくなり・宿舍建設の為、田圃を埋め立てたなどから、雨水の滞留がなくなり海に栄養不足の水が流入し広島名産の牡蠣が育たなくなった。(1年物が出荷出来ず2年となった)
2. 海軍工廠跡地に工場建設のための岸壁を作ったため、近くの川から砂流入が止まった。この川は市水道の取水に寄与しているが、因果関係はあるらしい程度です。
3. 瀬戸内海全体で海砂が大幅に減少しているとテレビで放映された。海流に砂が押し流されている画面。
4. 昔の室積漁港はカタクチイワシ、エビ、デビラ、タコなど沿岸特有の魚を扱っていたが、今はデビラの乾物程度である。
5. 人手不足のため、雨水貯留用ため池に土を投入した。同時に後背地の山腹に観光道路を建設し水脈を寸断し、富栄養化の水は海に流入しなくなった。
6. 公共下水道の整備は完了した。



人口も4万人で殆ど増減なしで高齢化の波に浸かっている町は、工場からの税金で生活している。

参考；2006会報 No.52. 10頁「消えゆく砂浜」を前広報部長・鎌田祐二さんが執筆されています。

いま、何をしているか



児玉 勇 横浜市

ご承知のとおり、横浜市は昨年1月より地球温暖化対策本部から「CO-DO30」の名を持って、2025年にCO₂排出量を30%カットする目標を作り、具体的な行動指針を打ち出している。成功した「G30」に準じたものである。

そのためにこの1年間、「協議会のあり方」「環境教育の進め方」「環境ポイント」等、多くのプロジェクト会議が開催され、それに出席するのが大きな負担になっている。

会議は予算もない中で、市民の活動に期待するような話が多く幾分空転気味であるが、これを軌道に載せることは必須であるため、出来る限りの協力はするつもりであるが…

先に行われた横浜環境創造審議会で意見を求められ、行動指針の中には「単にお題目を並べるのではなく、今、既に取り組んでいる市民の活動をどう育て、システム化していくか優先すべき」を強調させてもらった。

現在の私自身のスタンスは最先端で如何に環境モラル（エチケット・マナー）を上げていくかを重点に置き、環境イベント（横浜カーフリーデー・よこはま水と緑の日）を立ち上げ、参加を呼びかけると共に、地域環境講座・小学校「エコライフ教室」のスタッフとして「ストップ温暖化」の輪を拡げていくことに努めているつもりである。

その一環として、昨夏に当リーダー会が受託した「夏休みエコライフ教室」（※注）には積極的に協力させてもらったが、嬉しいことにそこからの拡がりが出てきたことである。

1. この教室に参加されたPTA役員の方から、PTA主催「エコ・ecoふれあいまつり」に参加を要請され、参加。
2. そのイベントで展示・実験を見た先生から「総合学習」での協力を求められた。（写真 教室風景）



3. それをアジェンダ推進センターの予算で開催することができたが、先生・子どもたちが真剣に乗ってきてくれて、今までにない手応えのある講座をすることができた。

4. 担当の先生はこの内容を踏まえ、校長へ提言すると共にどこへ行っても（転勤）、この講座の依頼はしていきたい旨を明言。

今、当方が考えていることは横浜市が[YES]（横浜エコライフスクール）で教室や講座強化していくことになっているので、この一連の準備・カリキュラムをマニュアル化することで、それに応えていくことができないか、検討中である。

問題は人材である。

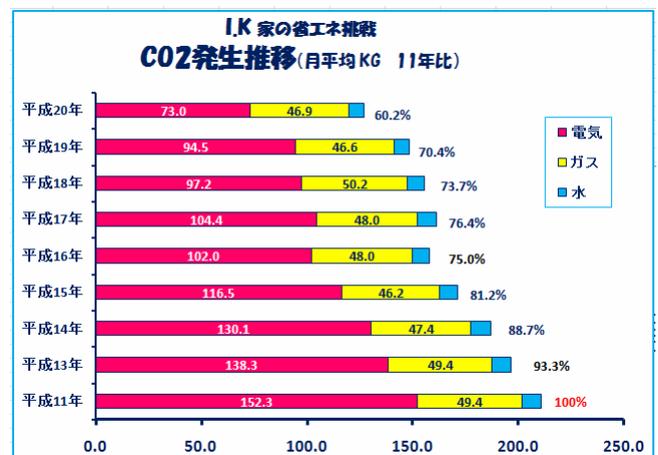
この夏からの一連の活動には、Kリーダー会メンバーを中心に約15名が関与してきた。

これから増える学校エコライフ講座、地域出前講座にこのメンバーが核になり、新しくその周辺のリーダー、地球温暖化防止推進員、よこはま協議会メンバーに参加願ってその輪を拡げて行くことができると思いたい。

平成13年に発足させた「神奈川区環境問題を考える会」は8年経過して、会員の高齢化が進み、休眠状態であるが、具体的な形で区や・町内会が「CO-DO30」に沿って動くことになれば、上述のシステムを活用させてもらえることを期待している。

尚、個人的には10年間、「エコライフチャレンジ」（環境家計簿）に取組み、電気使用量40%、CO₂排出量60%まで削減している。（下図グラフ）

この実績を色々な「ストップ温暖化」の行事の中で生かしたいと思っている。



（※注）平成20年度「子ども環境体験教室」
神奈川県環境科学センター提案型協働事業

特集 活動総括 Project Report



フォルティシモ fortissimo ^{みちるべ}な手法は活動の道標

「市民共同おひさま発電所」完成報告

山下博子 川崎市

2007年11月に、川崎市国際交流センターに市民共同おひさま発電所を作る取組みを始めることを投稿しましたが、(※注・2007会報No.59、10頁参照)昨年8月に設置完了することができました。これは、かわさき地球温暖化対策推進協議会とNPO法人アクト川崎がプロジェクトを作り、川崎市国際交流協会や地元のモトスミ・ブレーメン通り商店街の皆さんもいっしょになって、川崎では初めての市民共同発電所を作ろうということで約1年間、募金活動や設置に関する様々な問題を皆で乗り越えて完成することができました。GIAC(財団法人広域関東圏産業活性化センター)のグリーン電力基金の助成金が大きな力となりましたが、それにも増して多くの市民の皆さんや団体・企業の方々から寄付金を頂いたことが(430件)、私たちの活動の励みとなりました。設置後は10団体ほどお迎えして見学・説明会を行って取組みを紹介させていただきました。



今後も共同発電所を活動拠点として、温暖化防止・自然エネルギーの普及啓発活動を続けていくのが目標です。

私が自然エネルギーの活動に関わるようになったのは10年前、そのころ既に各地で市民共同発電所を作る取組みがされていて、私が参加しているソーラーチームもそれを目標にしていたのですが、自分たちの実力不足で実現することができませんでした。でも2年前にチャンスがめぐってきていよいよ実現に向かって突き進むことになりました。でも私自身には少しだけ悩みがありました。本来はEUのように例えば自然エネルギー発電買取制度などを作って、国全体で温暖化防止に取り組むべきと思っていて(だから政治が変わらなきゃという考えです)。

10年遅れの市民共同発電所の取組みにどれほどの意味があるのか?と思いながら、しかしもう後戻りはできない、プロジェクトメンバーの皆さんの熱意に圧倒されながら私も走りました。寄付をして下さった多くの皆さんの期待も感じました。1つことを実現していくエネルギー・集中力を感じました。そういう中では私の小さな悩みは取るに足りないことです。無事に完成できたことは私にとっても喜びです。設置して終わりにならないようここでの普及啓発活動をしていこうと思っています。

センターは川崎市中原区にあります。最寄り駅の元住吉駅には140kWの太陽光発電があり、モトスミ・ブレーメン通り商店街は「1店1エコ運動」を行っているとても活気のある商店街です。市民共同発電所見学と合わせてエコツアーを実施しています。ご関心のある方はアクト川崎(メール: act.kawasaki@gmail.com)までお問い合わせください。

平成21年度総会ご案内

特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会
代表理事 吉田 栄一
会員の皆様

平成21年度総会を右記の通り開催いたしますので、万障お繰合せの上ご出席賜りますようお願い申し上げます。また、総会に先立ち、記念講演をお願いしておりますので会員以外の方のご出席も大歓迎です。多くの方をお誘いください。

記

開催 平成21年5月23日(土)
13:30~15:00(13:15開場)
会場 ■ひらつか市民活動センター 会議室
JR平塚駅南口から徒歩2分
記念講演
演題 「丹沢大山総合調査~その背景と基本的な考え方」
講師 神奈川県環境科学センター・原田 進 氏
定期総会 15:15~16:45
懇親会 17:30~19:00(開催場所未定)

保育園、小学校及び中学校における環境教育の実施状況

林 十海郎 横浜市



リーダー会の会員に名を連ねていますが、環境マネジメントシステム審査員の本業が忙しく、本会の活動に殆ど参加していない小生にとって、投稿することは誠に借越であります。自治体の教育機関における ISO14001 の審査を通じての環境教育の一端を紹介させていただきます。なお、以下に述べる事例は、長野県のある市の事例であることをお断りしておきます。

<保育園>

- ・ 保母さんによる環境保全に関連した劇の上演
(エコレンジャー、ゴミレンジャーの登場)
- ・ ゴミの分別に関して、園共通のゴミマークの指定、仕組をクイズ形式で掲示
- ・ 親子で種蒔きから収穫、調理、食事に至るまでの野外講座を実施
- ・ 資源物のリサイクルの様子を、園児に解りやすいように絵に描き、それを部屋に掲示
- ・ 親子一緒に畑づくりを通じて、地域の自然に目を向けさせる取組み
- ・ 牛乳パック等から工作に再利用と紙のコースターづくりにより「紙の再生」を体験
- ・ 講師を招いての自然観察教室を実施し、継続した自然環境の啓発

<小学校>

- ・ 「環境教育の推進」について、各学年でそれぞれテーマを定めての活動
5年生：「河川調査プロジェクト」を設定し、水質・生物などの調査を継続的に実施
4年生：20時間以上の環境学習、ラベンダー園づくり、エコウォークへの参加等を実施
3年生：外部講師による環境講座を受講

- ・ P T Aとの協働で、「親子でクリーン」と称する環境美化活動を実施
- ・ 生徒のなかに「電気係」を決め、積極的に節電への取組を実施
- ・ エコウォーキングや環境トーク&パフォーマンスへの参加を計画
- ・ 1年生から6年生で構成するクリーンパトロールを実施し、学校周辺の美化活動
- ・ 全学年で地元 JA 特産品レタスを栽培。市民に販売し、花の種基金を設置

<中学校>

- ・ 「環境にやさしい学校づくり」に関して、学校前の路上に許可を得た上でプランターの設置とビオトープの整備
- ・ 生活委員会を中心にして「ゴミ拾い登校」を実施、学校祭でアルミ缶アートを創作
- ・ 生徒会の福祉委員会活動で、市内事業者と連携し、エコキャップの回収事業を展開
- ・ 食べ物を残さない意識付けとともに、環境問題までに踏み込んだ健康教育学習を実施
- ・ 国道のゴミ散乱状況の現地調査を実施。自発的にマナー呼び掛け看板を設置し、地元報道紙が取り上げた。
- ・ 生徒から呼びかけ、地域ぐるみで美化活動を実施
- ・ 生徒会の^{ぎんなん}銀杏販売による収益金を利用し、荒れた山にもみじの植樹を実施

以上は、活動の極く一部であり、積極的に活動されているとともに、学校での活動が父兄ひいては、それぞれの家庭に波及されていることを非常に心強く思っております。



運営委員会報告

事務局 桑原 清

会員数 (3月12日現在)

正会員 135 賛助会員 21 特別会員 5 計 161 名

1月運営委員会 (1月8日)

- ・ 前回議事録確認
- ・ 21年度市民環境活動報告会開催方針(継続審議)
- ・ 21年度環境ボランティア養成講座は継続する。

2月運営委員会 (2月12日)

- ・ 21年度子ども環境体験教室の企画案了承
- ・ 21年度コミカレ企画、実施時期 実施案了承
- ・ 21年度はまぎんこども宇宙科学館実施案了承

3月運営委員会 (3月12日)

- ・ 21年度親子で楽しむ環境展 参加承認
- ・ 21年度の市民環境活動報告会 (開催は未決定)
- ・ ちがさき環境フェア (7月4・5日) 出展承認

活動の裾野を広げ、これから先を考えよう！



第15回市民環境活動報告会報告

実行委員長 猪股満智子

2月21日、県民センターホールに於いて第15回市民環境活動報告会が、昨年より30名ほど少ない102名の参加で開催できました。以前のような昼食をはさんでの長時間開催型から、午後早めにスタートして集中型に切り替え、口頭発表を1本控えて好評のポスターセッションを増やしてみました。その結果は一般46名、当会31名、かながわ環境カウンセラー協議会13名、県環境計画課、環境科学センター関係者10名（重複なしの択一選択方式）といった内訳で、一般参加者増に対して当会参加者の減少が顕著に出ました。会報での折り込みのはずが、手違いで気付いて貰い、難しかったことや、近年の専門的で高度な基調講演内容に比べ、やさしいテーマで一般参加者受けを狙った結果が如実に表れたような気もいたします。

それでは高度な内容で基調講演をお願いし、当会会員のための参加が増えればそれでよいのでしょうか。これでは一般参加者は期待できず、裾野は広がりません。しかもそれが会員自身の知識としての学習に役立ったとしても、実践活動に結びつけられないとしたらもったいない。そもそもこの事業は、発表者顕彰型ではなく、環境学習リーダーやカウンセラーとなった市民、そして地球温暖化防止活動推進員の発表者、参加者相互のスキルアップ、ひいては市民の活動者も含めて活動内容や発表手法に始まり、質問やセッションの受け答え、開催準備から当日運営・進行まで、諸々のところでお互いの良いところを交流という手段で吸収し、自身のものにしていくといった趣旨で開催されてきたものです。実行委員会もそれに近づきたいと努力してきたと考えます。

実践活動に基づいたメッセージの強さ

今回の基調講演者はじめ、各発表者もそういった視点で選ばせていただきました。「農薬の危険性を叫ぶよりも、大根を育て、運び、食べることから始めよう」を合言葉に環境NGO「大地を守る会」を設立し、有機野菜や低



温殺菌牛乳等の宅配・卸の事業経営と、東南アジアとの交流や「100万人のキャンドルナイト」、「フードマイレージキャンペーン」の呼びかけ人など、実行力の手本のような藤田和芳氏の基調講演。金目川水系流域ネットワークの柳川三郎氏と山崎・谷戸の会の菊田由美氏は、長年にわたる地道な活動を基礎に多様なグループと手をつなぎ、保全活動以外にも幼児・小学生から大人までが係わる環境教育に発展させ、行政との協働まで進めています。

地球温暖化防止活動推進員は、個人スタンスとしての活動が基本にありますが、普段、地域で推進活動されている自身のエコライフ実践例の数々をご披露された長野富喜子さん。またPTA活動から発展し、サークルでのひら島を主宰している廣田修氏は若くて現役の技術士・環境カウンセラー、温暖化防止活動推進員、その上保育士の資格も持つ。貴重な毎月土曜の休日を地域の幼児・低学年児の環境遊びの日に当てておられるという。プレゼンテーションはさすがに妙を得ていました。

ポスターセッションにはいつもの顔ぶれの他に、社会福祉法人の管理栄養士・小川恵理子さんがご飯食の大切さをアピールし、口頭発表をした団体も展示発表してくださいました。

NPO法人として真の自立の時

県環境科学センター会議室での「市民環境学会」スタートから市民環境活動報告会も15年経ました。昨年度の会報でKERCよりの自立運営をほのめかしましたが、この世界経済不況も影響し、県財政も逼迫予算の憂き目となり、KERC事業化は勿論、市民への運営委託も不可能となりました。長い年月に亘り、私たちにレールを敷いて見守ってくださいましたご恩を無碍にすることはとても適いません。今後に向けて、当会がどうあったらよいかを真剣に考え、いろいろな可能性を検討していきましょう。





かながわのいきもの「いま・むかし」 に協力団体として出展

大気環境部会長 猪股満智子

まず現状を把握することから

2月1日(日) みなとみらい線「日本大通り駅」近くの横浜情報文化センターホールに於いて、2倍近い応募の中から抽選で選ばれた200名の参加で開催されました。時間をかけた入念な準備のうえに、豊富な国からの予算とこれだけ多くの主催、共催、協力活動団体に支えられると、このように盛大な催しができるのかと、改めて担当事務局スタッフの力量に感服しました。残念ながら実行委員メンバーはシンポ会場には防災上から定員の関係で入ることが許されず、ロビーのTVモニターでの視聴となりました。基調講演はじめ各パネラーの内容要旨はそれぞれ係わってきた長い足跡からの報告と変化している現状把握でした。特に農業経営士と水産技術センターからの報告で「野菜や魚が本来収穫したい頃に採れなかったり、りんごの色づきが悪くなるように見かけが悪くなったり、傷みやすかったりしている」が気懸かりとなりました。

一人の力よりもちょっとした大勢の力の結集

開演前の30分間と休憩時間にはロビーでの協力団体によるポスターセッションが行なわれました。主催のかながわアジェンダ推進センターは横浜気象台から入手した「気象台での見本種生物毎の初見日、初聞き日カレンダー」を折れ線グラフで表現したものを展示し、当部会と似た視点でまとめられていることに興味を引きました。

大気環境部会は、モニタリング部会発足当初から大気測定と平行して実施してきた「指標生物による自然度調査」基礎編を発展させた「気候変動を見守ろう」をスタートして2年目のところで協力団体として声を掛けていただきました。07年、08年度調査結果をマップ化して第15回市民環境活動報告会ポスターと併せて展示しました。タンポポをはじめ草本類の開花に関しては、内陸部よりどうも海岸部に近い地域が黒潮(暖流)の影響か土も暖まり、早まっていることを発見できました。これは1人の力ではなかなか気づくことは難しく、大勢のほんのちょっとした気心が一つにまとまり、表現することから分かってくることです。



課題は、(大気測定にも言えることですが)県西、県央、県北、県東部からの「いきもの情報」を寄せていただければ、より価値のある調査となり、根気強く長期にわたり調査観察、引き継いでいくことで、気象台調査に近づくことも可能でしょう。

佐伯前部長からは、横浜・久良岐公園で暮れから咲き出したカントウタンポポを1月いっぱい毎日観察、撮影日記のファイルを提供してもらい、机上で見ていただきました。これは一日一日の気温・気候変化がカントウタンポポ開花に如実に表れていることを証明するもので、県版分布マップを補強するものとなります。【今冬は12月23日に久良岐公園で1本開花後、年末、年始は鎌倉山近辺での初氷でわかる通り本格的冬型が暫く続き、開花も前年開花していた他所でも見受けられませんでした。1月後半に急に春めいて、小田原市役所近くでサクラ開花を発見し、例年の報告箇所からタンポポだよりが寄せられた】=部会報告参照

キャンペーンディレクターのマエキタミヤコ氏は「地球温暖化防止の大切さに気づいていただける道具として一人でも大勢の人に参加していただきたい」と淡々と語りましたが、私たちも「なんだ、こんな他愛無いことを」と腹立てずに、大人から子どもまで一人でも多くの人に語ると共に、自らのエコライフの実践と気候変動をみつめていくことではないでしょうか。

みつけ情報をお寄せ願います

- ①当会のデータ集約は大気環境部会が担っています(部会報告ページ参照)
- ②推進員でみつけ情報登録者;かながわアジェンダ推進センター(県民センター3階) fax045-321-7454 Eメール; admin@kccca.jp
- ③個人として登録;全国地球温暖化防止活動推進センター(おんだん館)内「いきものみつけ」事務局 TEL;03-3568-4131 FAX;03-3568-4132 mail; info@mikke.go.jp オフィシャルサイト; www.mikke.go.jp

特集 活動総括 Project Report

気候変動枠組条約ロゴ



自立的市民を如何に惹起できるか

エコ生活の入り口 内発的動機づけ



藤田 実 厚木市

先達の経験から生れたとされる、マーフィーの法則という経験則がある (A. ブロック著、21世紀版マーフィーの法則)。この法則は、人が関わるところで、「起こる可能性のあることは、いつか実際に起こる」、「遅かれ早かれ最悪の事態は続けて発生する」など様々に表現される。宇宙の現象である地球温暖化を進行させているのは人類であり、これについて IPCC (気候変動に関する政府間パネル) はいろいろ明らかにした。そして世界的に対策がとられるようになった。地球温暖化にはマーフィーの法則が当てはまることはないと思いたいが、可能性を否定できない。2007年の北海道洞爺湖サミットでは2050年までの長期目標が話し合われた。いまの小学生は43年後には初老の50歳前後だ。次の時代は若者が築くが、この子らはその次と考えてよいだろう。この子たち、その先の子孫のためにも、なんとしてでも地球温暖化の進行を緩和しなければならない。

オフィスビルや商業施設など市民が集まるところや家庭での温暖化対策は一向に改善されていないことが明らかになっている。市民レベルの環境保全活動が進まないのは、①やらなければならないことは分かっているが、②どうしたらいいか分からない、③一人がやっても効果はほとんどない、果ては、④面倒だ、⑤無関心、という姿勢がうかがえると思う。冬、降雪が少ないなどのニュースは届く。しかし温暖化が差し迫ったこととは信じたくないという心理が働くのは分かる。市民レベルの温暖化防止活動をするには一つの道しかない。ノーベル賞受賞者のワンガリー・マータイ女史をはじめ、多くの人々が、一人ひとりの環境保全活動の重要性を強調しており、これに尽きる。

筆者は、市民を対象にした環境保全活動の講座を受け持ち、また市民団体に所属して小学生への環境学習支援を行っている。現役中には、環境教育にも携わった。現在、クール (ウォーム) ビズ、クールネッサンスあるいはキッズ ISO プログラムなど市民あるいは子どもに向けて、日常生活での環境保全活動の呼びかけがなされている。

エコ生活の入り口として、筆者が行っている方法もこれらと大差ない。ここでは学生に行った環境教育について

述べる。平塚市役所が行っていた「ファミリー環境 ISO」を参考にした。「必要でない電灯のスイッチを切る」など、100以上の保全活動項目から、10項目程度を選ばせる。これを講義期間中の3ヶ月間実践し、2週間ごとに5段階で自己評価させる。最後にレポートを提出させる。レポートに記述された、次に示す評価・感想から、学生たちに内発的動機づけがなされたことがうかがえる。

①これはよい企画だと思う／②環境を見直す機会を与えられたことに感謝する／③実践して考えが変わった／④買い物はごみになるものは避けるようになった／⑤実践することが地球環境を救うことだとわかった／⑥一人暮らしに速く慣れた／⑦環境対策は個人からがわかった。ごみ拾いも始めた／⑧少し面倒だが、小さいことでも大切だ／⑨続ける。小学生への環境学習支援でも、次のように内発的動機づけがなされたことがうかがえる。

①わたしたちが地球をこわしていることがよくわかりました／②地球おんだんかのことを考えるようになりました／③電気とかいっぱい使ってはいけないとわかりました。

また、市民講座での体験者 (60歳前後) の声も紹介する。①一人一人、一日一日の他愛ない小さいことの実践で、大きい力になることに気づいた／②温暖化が大変な問題だということが分かった。こんなことをしたって大丈夫だろうということが問題であり、努力の積み重ねが必要だ／③生活ではエネルギーが必要。賢く生活していかなければ地球はもたない。

参加したこれら3階層のいずれの人たちも、毎日の生活で環境保全活動をすることにより、その意義に気づく。そして、内発的動機づけによって自発的にエコ生活を続け、保全項目を増やしていくようになる。当会報 No. 65で、中島信久氏と射手建雄氏の記事でも、言葉は違うが内発的動機づけがなされることが述べられている。自然に接するなどの体験を含めて、いろいろな分野のどこから始めても内発的動機づけがなされると考える。先ず、エコ生活の入口に立って、参加してもらうことが肝心である。



部会活動

ケナフ部会

部会長 荒谷 輝正

2009年度 予定



定例会

- 3月29日(日) 環境科学センター 圃場 畑掘削
- 4月19日(日) ケナフ種蒔き
- 5月31日(日) 圃場管理 親子で楽しむ環境展準備
- 6月21日(日) 圃場管理 その他

対外活動予定 (決定分)

- 6月13日(土) 「親子で楽しむ環境展」 横浜新都市プラザ
- 8月3日(月) はまぎんこども宇宙科学館 「古紙紙管を利用した写真立て」 教室
- 12月5日(土) 平塚リサイクルセンター
「くるりんまつり」 参加



ケナフ問合せ先

対外活動実施

- 2月21日 相模原市中央小学校 3年生参加 84名
・ケナフの種蒔き→用紙→凧作りに至るまでを調査・実験し寸劇発表。(荒谷輝正、小林義博出席)

2009-2-21 相模原市中央小学校 3年生発表風景



- 3月11日 相模原市大沢小学校 4年3組参加 34名
・環境講座及び牛乳パックによる紙漉き実施。地球温暖化防止のために、自分たちが出来ることとして物を大事して行きたいと発表。(荒谷輝正、安部洋子参加)

荒谷 輝正 (あらたに てるまさ)

〒229-0021 相模原市高根 2-14-28

☎/Fax 042-754-3256

E-mail teruaratani@jcom.home.ne.jp

1月度定例部会：

エネルギー部会

部会長 安藤 紘史

活動予定 (21年4月～21年6月)

(定例部会は県民サポートセンターにて開催)

- 4月8日(水) 16:00～18:00 705号室
- 5月13日(水) 16:00～18:00 708号室
- 6月10日(水) 16:00～18:00 603号室

活動報告



はまぎんこども宇宙科学館主催省エネ実験教室

2月14日(土) 実験とソーラーオルゴール作りを中心とした省エネ教室をアース・エコと共同で実施。アンケートからも楽しく省エネ体験をした様子がうかがえる。

横浜市神奈川区の小学校に出前教室

1月26日、2月26日、エコネットよこはまと協力して省エネ教室を実施。我々が児童から多大な元気もらうほどの好反応を得ることができた。

<今期反省>

- ・啓発活動参画機会が増加(新規:子ども環境体験教室 3会場4回、神奈川区の小学校2回等)
- ・相互情報交換 例会(12回)毎に相互の情報交換を行った。テーマの幅は広がる。
- ・冷蔵庫の消費電力の実態調査を5人の会員の協力を得て1月から開始。省エネ診断の貴重なデータを期待。

- 1月14日(水) 16:00～18:00 参加10名
場所: 県民サポートセンター 702号室

・冷蔵庫の消費電力測定

最近冷蔵庫を購入した5名の会員に協力願い、1年間の消費電力の測定を開始。表示されている年間消費電力の検証や省エネ診断向けの基礎データ蓄積を開始。

2月度定例部会：

- 2月4日(水) 16:00～18:00 参加11名
場所: 県民サポートセンター 702号室
情報交換

- ・オバマ新政権のグリーンニューディール
- ・日本の貿易収支と燃料輸入高推移について

3月度定例部会

- 3月11日(水) 16:00～18:00 参加7名
場所: 県民サポートセンター 702号室

- ・来年度の活動方針と役員について審議
- ・冷蔵庫測定値集計の中間報告
- ・各種受講セミナーの概要報告(桑原)

<来期展望>

- ・啓発＝更に機会を増やすべく関連部門との連携を強化。
- ・相互情報交換＝見学会等も企画。参加をリーダー会全体に参加を呼びかける。
- ・共同調査＝冷蔵庫の消費電力調査を1年間続け、省エネ診断に使えるように纏める。





大気環境部会

部会長 猪股 満智子

活動予定

5月30日(土)13:30~ NPOセンター大船
・'09年度の活動方針確認ほか
・6月NO₂測定準備(ろ紙充填)
・7月はまぎんこども宇宙科学館事業企画組立て
6月4日(木)18時~6月5日(金)18時
NO₂ 24時間測定

6月13日(土)親子で楽しむ環境展出展予定
6月14日(日)13:30~KEREC実習室 NO₂分析
7月11日(土)はまぎんこども宇宙科学館事業本番



活動報告

2月1日(日)13:00~16:30 横浜情報文化センター
シンポジウム・かながわのいきもの「いま・むかし」
に協力団体として指標生物調査マップを出展
主催;かながわの「いきものみつけ」
実行委員会(環境省・アジェンダ推進センターほか)
2月21日(土)12:30~17:00 県民センターホール
第15回市民環境活動報告会・ポスターセッションに
08年度NO₂測定結果報告を発表;長村、井上
3月7日(土)13:30~16:45 NPOセンター大船
H20年度活動総括と活動方針等検討

気候変動を見守ろう

身近な生物を指標に初確認日をご報告願います。
キーワードは「いつ、どこで、初見、初聞き」
春の対象; カントウタンポポ、フキノトウ、
モンシロチョウ・ツバメの飛来、ウグイスの初鳴き他
遠出をする必要はありません。自宅周辺、外出の
際などに、ほんのちょっと注意をばらうと、毎年の
気候変化が手に取るよう。マップデータ化します。
送り先 tel&fax 0467-32-6858 猪股満智子
eメール km_inmt@ybb.ne.jp

H21年度版を募集しています。調査のヒント;
前年見つけた場所を毎年追っていくのもよいですね。
【カントウタンポポ】08年12月23日(横浜・久良岐公園)
09年1月14日(渡良瀬遊水池) 1月29日(栄区小菅ヶ谷大誓寺)
2月28日(鎌倉・二十五坊) 3月3日(横浜・舞岡公園) 3月15
日(鎌倉・笛田3)
【シロバナタンポポ】2月3日(相模原・磯部河川敷)
2月28日(北鎌倉・瓜が谷)
【フキノトウ】1月28日(鎌倉・今泉3)
2月4日(鎌倉・笛田3)
【初氷】08年12月27日(鎌倉笛田2・鎌倉山)
【モンシロチョウ】08年12月18日(小田原・穴部、府川)
09年1月6日(座間谷戸山公園+ムラサキシジミ)
【イワツバメ】09年2月19日(小田原酒匂川河口+アマツバメ)
【ウグイス】09年1月26日(鎌倉・広町)

水環境部会

部会長 齋藤 昭一

活動報告 「特別研修会の実施」 於;酒匂川

2009年3月16日 快晴

【実施概要】

神奈川県土地・水質課より私達の「川の連続性」につ
いて、水生生物の調査活動を実際に見学したいとの要望
で行われることになった。

例年より1ヵ月早い酒匂川水生生物の調査となった。

【集合】JR 松田駅山側、AM9時

【参加】神奈川県土地・水質課・田端氏

部会参加・杉崎 茂・安丸元一・柳川三郎・古谷敏夫

・猪股満智子・門間光次・浅岡幸男

・土屋俊幸、齋藤昭一9名 合計10名

【調査】酒匂川下流、十文字橋上流500mの地点



【状況】初夏を思わせる陽気の中、4台の車で現地へ。
助成を受け購入した顕微鏡、水中カメラの紹介あり。

10時調査開始

水温10℃弱、気温16℃、無風、絶好の調査日

【採集】

魚類 アブラハヤ、シマドジョウ、ツチフキ、

貝類 モノアラガイ、サカマキガイ、

低生生物 オオヤマダラカゲロウ、エルモンヒラタ
カゲロウ、ヒラタカゲロウ、チラカゲロウ、
トビゲラ、カワトンボ、サナエトンボ、
ザリガニ、等

◇3月のこの時期、川の状況から見ると時期尚早の感。
まずまずの収穫であった。

・今回の調査で最後となり、北海道の登別の地に就職が
決まり、出発する土屋さんの挨拶があった。

・今年は「川の連続性」についての調査と平行し、
環境科学センターの要請による、酒匂川の水生生物の
調査に、随意参加することが部会決定されている。

グリーン部会

部会員 齋藤 美代子

活動予定 4月打ち合わせ



活動報告

2月7日(土) 10~12時 ひらつか市民活動センター

参加者: 柳川、上田、吉田、射手、齋藤

- ・温暖化防止出前授業(境木中学)プログラム検討役割分担
- ・市民活動報告会、ポスターセッション

2月21日(土) 12:30~17:00: 県民活動センター

- ・市民活動報告会:ポスターセッション

・参加者: 柳川、上田、吉田、中村、大橋、齋藤

2月27日(金) 8:30~12:10: 横浜市境木中学校7組

参加者: 柳川、上田、吉田、射手、齋藤

- ・温暖化防止出前授業:「買い物で社会をかえよう!」と題して買い物を通して地球温暖化防止を考える
- ・参加型紙芝居「冬のお買い物」を通して、旬、地産地消を学ぶ。
- ・班編成による買い物ゲームで買い物体験をして、環境に優しい買い物を考える。



広報部会 広報部長・企画編集発

送責任 岩下 次郎

年度末ふりかえり ”盲人蛇におじず“の例え通り壁新聞程度の知識で手を染め、ご迷惑をお掛けしました。“前車の覆るのを後車の戒め”に参考までメモします。

<広報部担当独白、組織総括>

編集方針の転換

- ・ルーチンワークの型流編集から、NPO 組織広報のあべき姿に想いを馳せ、古い衣装を出し着てみた。
- 協力度 担当企画提案以外、部会、役員会、会員 皆無年初OBからの発言あったが建設的なものなし名簿宛先、メールアドレスの査読に時間を要した

<平成20年度の活動総括>

今年度は新入部会員を迎え力強い活動の展開が出来た。また、新しい紙芝居「宇宙人ミノリン」の製作上演や、グリーンコンシューマーの10原則理解促進の為、イラストやポスターを作り展示、教材の見直し作業も進めた。学校向けでは、地球温暖化防止出前授業として教室2回、大人向け講座2回、平塚市環境フェアでは紙芝居、アジェンダの日の街角アンケートや、市民活動報告会では、ポスタートークセッションによる啓発活動を行った。これらの活動を通して“買い物の仕方で社会が変わって行く”意識付けを、部会員とともに学びました。その準備として、打合せ会を毎月開催した。地域社会にあっても、この1~2年で環境意識が定着し取り組み方が、変わりつつある事を実感した一年でした。

<平成21年度の活動方針>

地球温暖化防止に向けての動きが活発になっている中、消費者が環境に配慮した商品を探し求める為、商品にかかったCO₂を表示する動きが進んできています。それらの社会変化をいち早く受講生に伝え、店舗と連携し、グリーン購入普及促進への取り組み方について話し合い、一般社会に定着させ、市民生活向上を目指し活動して行きたいと思えます。



広報誌発行経費

- ・印刷用紙購入なし。都度補給あり。
 - ・購入品=角2封筒、宛名ラベル、リクグラカード etc
 - ・配送費70円佐川ゆうメール便採用しコスト減
 - ・印刷時応援態勢 61号9人→6→5→4→実2人 応援者交通費負担と生産性とのバランスが課題
- ◇62号イラスト“フットボールの月”の転写技術不足は人格権侵害になり、著作権問題の重要性を痛感した。併せて掲載写真は提供者が許諾済との認識でいるが…
- ◇読んで楽しい紙面作りをどう作っていくか。編集スキルアップにつくる。余裕ある編纂作業への協力体制をお願いいたします。

発行者: 特定非営利活動法人
神奈川県環境学習リーダー会
代表理事 吉田 榮一
企画編集責任担当: 岩下 次郎
http://members.at.infoseek.co.jp/k_leader/

◆ご意見、お問合わせ

E-mail : npo.k.leader@gmail.com

※本紙は会員の年会費と有志による寄付により運営されています。



◆寄付、会費等納入口座は下記をご利用ください。

振替口座: ゆうちょ銀行 00230-4-30769

加入者名: 神奈川県環境学習リーダー会

▼不許複写 本紙掲載記事の全て無断転載をお断りします。

(c) 神奈川県環境学習リーダー会

2008 Printed in Japan